

健康知恵袋

マダニに注意！

「重症熱性血小板減少症候群」に気をつけましょう！

最近になって存在が知られるようになった、ダニ媒介性の新しい感染症「重症熱性血小板減少症候群」の患者が、このたび、日本国内において報告されています。

■「重症熱性血小板減少症候群」(SFTS)とは

SFTSウイルスを保有するマダニ類から咬まれることによって感染し、発症するウイルス性感染症のことです。

■マダニとは

マダニは食品などに発生するコナダニや、衣類や寝具に発生するヒョウダニなど家庭内で生息するダニとは種類が異なります。

マダニ類は固い外皮に覆われた比較的大型（吸血前で3〜4mm）のダニです。

主に森林や草地などの野外に生息しており、市街地周辺でも見ら

れます。日本でも全国的に分布しています。

■潜伏期間（病原体に感染してから身体に症状が出るまでの期間）

- マダニに咬まれてから6日〜2週間程度

■感染経路

- マダニによる咬傷※1（ただし、ダニによる咬傷痕が確認できない場合も多い）
- 感染者の血液・体液との接触感染

■症状

原因不明の発熱や食欲低下、吐気、嘔吐、下痢、腹痛などの消化器症状が中心です。

時に頭痛、筋肉痛、意識障害、けいれん、出血症状（紫斑※2・下血※3など）、呼吸器症状（咳など）が出現し、致死率は10%を超えます。

■予防について

有効な抗ウイルス薬はなく、予防のためのワクチンもありません。野外でダニに咬まれないことが重要です。

- マダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意をする

- 草むらや藪などマダニが多く生息する場所に入る時は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用する（肌を露出しない）

- 屋外活動後はマダニに刺されていないか確認をする

- 感染者の血液、体液、排泄物との直接接触は避ける

■もしマダニに咬まれてしまったら

マダニ類の多くは、人や動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突きだし長時間（数日から、長いもので10日間）吸血します。無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるので、吸血中のマダニに気が付いた際は、病院で処置をしてもらってください。

また、マダニに咬まれた後に発熱の症状が認められた場合は、すぐに病院を受診してください。

※1 咬まれた傷

※2 皮膚や粘膜の組織中に出血して起る紫色の斑点。

※3 消化管内に出た血液が肛門から出ること。

お知らせ

4月1日から3ワクチンが定期接種となりました

これまで任意接種となっていた子宮頸がん・ヒブ・小児用肺炎球菌の3ワクチンが、4月1日から定期接種となりました。

今までの予防票は4月から使えません。対象者には新しい予防票を送付しますので、4月からはそちらをご使用ください。

また、子宮頸がん予防ワクチンは、平成24年度は対象者が20歳（大学2年生相当）まででしたが、25年度からは16歳（高校1年生相当）までとなりましたので、ご注意ください。

○お問い合わせ

本庁健康福祉課保健衛生係

☎ 43-2836（直通）

佐賀支所地域住民課保健センター

☎ 55-7373（直通）